

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年1月31日

事業所名 たまキッズルーム高幡不動

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	8				
	②	職員の配置数は適切である	8				
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	8			トイレ等には手すり がついており、その 他の場所もバリアフ リー化されている。	
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル （目標設定と振り返り）に、広く職員が参画 している	7				業務改善をさらに図るた めPDCAサイクルにより 多くの職員を参画させ る。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	7				意向等をより把握でき るように評価表を活用 していく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	7			ホームページにて 評価表を公開して いる。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	5	1	1		外部評価を行う機会が少 ないので、今後積極的 に行い業務改善につな げていく。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	8			研修動画を用いて資 質向上を図っている。	
適切 な 支 援 の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	8				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	7				
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		活動を行う際には話 し合いを行い決めて いる。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	7	1			
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	4	3			課題を細やかに設定し 支援できるよう取り組 む。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせて放課後等デイサービス 計画を作成している	8				
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の内容や役割分担に ついて確認している	6	1		支援の内容につ いて細かく役割分 担を行っている。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	8				
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	8				
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	7				
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	5	3		管理者、児発管 が参画してい る。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っている	8				
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えてい る	3	2			受け入れの場合には各 機関と連携をしっかりと 連絡体制を整える。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との 間で情報共有と相互理解に努めている	5	2			今後情報共有を積極的 に行っていく。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	3	4			該当児がいないため、 行っていないが、移行が あった場合には連携をと り行う。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	2	2	2	利用者について 助言を頂いたり している。	今後さらに連携を取れる ように進めていきたい。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	2	1	3		
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している	2		4		
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	7				
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	4	3			研修等を行いペアトレ ニング等の支援を行える ようにする。
保	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	7				
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8				
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している		1	4		保護者の要望に応じ 行っていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
護 者 へ の 説 明 責 任 等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8				
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8				
	③⑤	個人情報に十分注意している	7				
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8				
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1	5		地域に根付いた行事を行えるよう事業運営を図っていく。
非 常 時 等 の 対 応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7				
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8				
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8				
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		1		身体拘束を行わなければならない場合には事前説明等をしっかりと行い放課後等デイサービス計画に記載を行う。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	1		該当児の利用があった際には研修を行い対応していく。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8				

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年1月31日

事業所名 たまキッズルーム高幡不動

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			
	②	職員の配置数は適切である	8			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7		活動等について毎日振り返り等を行っている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		自社ホームページにて評価表の公開を行っている。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4		外部評価をあまり実施していないので、今後機会を増やしていく。
適切な支援の提供	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		研修動画等を用いて研修の機会を確保している。	
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		チームで行えるよう打ち合わせを増やしていく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		活動に偏りがないよう工夫している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	8			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			振り返りの時間が取れないことがあるのでしっかり確保できるように改善する。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		業務日誌をつけることを徹底し支援の改善に努めている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		管理者、児発管が参画している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		1		受け入れの場合には各機関と連携を取り支援を行う。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		1		受け入れの場合は医療機関等と連携を取り連絡体制を整える。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	かしのきシート等を用いて情報共有等を図っている。	保育所等と連携をする機会が少ないので、移行支援をしっかりと行えるよう今後はより情報共有を密に行う。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1		
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2		連絡を取り合うこともあるが、数が限られているため、より多く連携を取れるようにする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある	1	5		保育所等と交流を図り、活動の機会 を増やす。
	㉑	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の 子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	4		様々な会議に参加できるよう情報収 集を行い積極的に参加する。
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	8			
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム（ペアレント・ トレーニング等）の支援を行っている	4	2		ペアトレーニング等を行えるよう研修 を行い支援できるようにする。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	7			
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、 これに基づき作成された「児童発達支援計画」 を示しながら支援内容の説明を行い、保護者 から児童発達支援計画の同意を得ている	8			
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	8			
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している		6		保護者等の要望に応じて開催する。
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速 かつ適切に対応している	8			
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	8			
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している	8			
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	7			
	㉜	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている		6		地域に根付いた行事などを行えるよ うに事業運営を図っていく。
非 常 時	㉝	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症 対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施 している	6			各マニュアルを見直し様々な事態を 想定した訓練を行う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
等 の 対 応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	8			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の こどもの状況を確認している	8			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	5	2		該当児の利用がある際には研修を行 い、対応していく。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	8			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	8			
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、児童 発達支援計画に記載している	6	1		身体拘束を行う可能性のある子ども がいないため、今のところは記載な し。必要に応じて記載をしていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。